

学習記録帳が英語学習者の動機づけに及ぼす効果

The effects of Learning Record on learners' motivation

加藤 澄恵

Sumie Kato

1. はじめに

大学全入時代が叫ばれる中、大学生の学びの質が危惧され、中央教育審議会は2012年8月28日、平野文科相（2012年8月当時）に対し、〈1〉現在4年の教員養成期間を大学院修士レベルの6年に延長〈2〉勉強時間が増えるよう大学教育の質を転換——の2点を答申した。〈2〉の勉強時間が増えるよう大学教育の質を転換との意見の中で、具体的には、中央教育審議会の大学分科会大学教育部会は、学生の勉強時間を調べたり、勉強時間を増やす方策を講じたりした大学を、財政面で優遇するべきとする素案をまとめた。勉強しない学生を放置する大学に改善を促す狙いで、大学生の勉強時間を増やし、大学生を勉強させるためである。日本の大学生は国際比較でも勉強時間が短いとされ、日本の学生が主体的に勉強する時間は1日に講義を含めて4.6時間とするデータをもとに、「必要時間の半分程度」と分析した。また、米国では、1週間当たり学習する時間は58.4%の学生が11時間以上と答えたのに対し、日本の学生は11時間以上学習すると答えたのはわずか4.8%である。(Yomiuri Online News)

学習者の主体的な学びを促すためにも、学習者の学習時間を増加させ、学習時間という「量」だけではなく、学びの「質」をも向上させるため学習者の学習に対する動機づけも上げる必要がある。動機づけと学習とは切っても切り離せない存在である。高い動機づけを持った学習は、高いレベルの達成度が得られる。学習者に高い動機づけをすることは、教育的達成ともいえる (Gage & Berliner, 1998)。また、Krashen等 (Krashen & Terrell, 1983) は、言語習得における情意フィルター (Affective filter) の重要性を指摘し、学習者の動機が低いとき、過度に緊張しているとき、学習に不安を感じているときなど、この情意フィルターは高くなり、言語習得が妨げられるのだと考えられる。動機づけは、学習者の障害を乗り越える自信を高め、成功を得るための努力を促進すると述べている。また、動機づけは、難しいタスクを乗り越える心理的サポートでもあり、また学習者が途中であきらめられないようにサポートすることも促進するものでもある (Gagne & Driscoll, 1988)。動機づけの最も重要な要素とは、学習に対する否定的な感情、学習への方向づけなどを肯定的な学習態度、自己効力に変更するものであると考えられる (McCombs, 1988)。動機づけされた学習者は、学習に対する肯定的な態度で学習に臨み、そして学習の成功へと導び

かれるのである。

学生の学習時間を増加させる方法は、授業時毎時間に試験をする、宿題を課すなどが挙げられるが、学習時間を増加させるだけではなく学習者に学習する動機づけをさせ、最終目的として学習効果を期待したい。そのため試験、宿題などの導入ではなく、学習時間を増加させまた学習者の動機づけを助長させるアクティビティーの導入を考える必要がある。

2. 本研究の目的

大学の語学教育において、第2言語学習の影響があるものとして動機づけが広く論議されている。その多くは、動機づけの分類、動機づけに影響を与える諸要因（性差、学習環境、性格、学習ストラテジーなど）であり、学習時間の増加による学習者の動機づけに関する研究はほとんど行われていない。そのような現状を鑑み、本研究では、英語学習者の学習時間の増加による動機づけの調査を行いその効果を検証する。もし、学習時間の増加による英語学習者の動機づけが明らかになれば、教師が学習者に対して、授業のあり方を構築することができると考えられる。具体的には、次の3点である。

- 1) 学習記録帳の利用が、学習者の学習時間を増加することができるのか。
- 2) 学習記録帳の利用が成績に反映されるか否かで学習者の学習時間の増加や動機づけの違いはあるのか。
- 3) 学習記録帳の利用が、学習者の動機づけに効果があるのかを考察する。

3. 調査協力者

調査協力者は国立大学で学ぶ日本人大学生（非英語専攻）1年生～4年生65名である。調査協力者を2群に分け、リスニング量に応じて成績に反映される（L2群、36名）と成績に反映されない（L1群、29名）である。つまりL2群は、毎週のリスニング量に応じてその量が成績に反映される群であり、L1群は毎週聴くリスニング量は全く成績に反映されない群である。調査協力者は、本研究の15週間、授業外でリスニングを聴いた。

両群のリスニング熟達度の等質性を調べるために、TOEICのリスニングセクションPart 2の問題30問が与えられた。TOEICリスニングセクションPart2の問題は、短い会話を聞いてその内容についての質問に答える小問である。その結果、L2群 ($n = 36, M = 16.5, SD = 4.1$) とL1群 ($n = 29, M = 17.6, SD = 4.3$) の間で、統計的には有意の差は見られなかった ($t = 2.1, df = 67, p = 0.0$)。そのため、両群のリスニング能力はほぼ同じであったと考えられる。

4. データ収集

データ収集には、質問紙を使用した。質問紙では、リスニング表提出についての学生の動機づけを調査した。全6項目、5段階のリカートスケールを作成した。アンケートは、

学期終了時に実施した。アンケートは無記名で、2012年7月に大学で実施した。クラス開始時にアンケートはコースの成績評価とは一切関係せず、研究目的のものであることを断った上で、回答用紙の記入方法を示し、質問用紙と回答用紙を配布した。授業で収集したアンケートによるデータは集計し、論文に使用することに同意を得た。尚、回収率は合計100%であった。

5. 手続きと授業の実施

調査が行われた授業は、1～4年次の必修科目であり、リスニング力、スピーキング力の向上を目指したクラスである。授業実施期間は15週であった。アンケートは14週目に行った。具体的な授業の内容は以下のとおりである。

- (1) 教科書は、Dale Fullerの*AIRWAVES Advanced*、Macmillan Language Houseを使用し、付属のCDを用いて授業を行った。リスニングの種類は、アメリカの大学の講義形式になっており、レベルは上級である。授業で扱うトピックは12ユニットからなり、Art Appreciation, Social Issues of the Day, A Closer Look at Democracy, Understanding Economic Systemsなど社会学、経済学、教育学など多様である。リスニング量は1ユニット約20分である。1ユニットが5つのパートに分かれており、教科書にはそれぞれのパートによって問題がある。自主学习用のリスニングはCDから音声聴くものではなく、いわゆるPodcastを利用した学習方法で、学習者は指定されたウェブページから登録を行い、音声を各自のPCやMP3、スマートフォンなどにダウンロードし、学期内で扱うすべてのユニットを好きな時に好きな場所で聴くことができた。
- (2) 1週目は学習記録帳の書き方、音声ダウンロードの仕方などの説明を行い、学習活動は2週目から実施した。なおリスニングの時間量は自己申告である。筆者が作成した聴いた時間を記録するリスニング表を授業初日に個々に配布し、毎週授業開始時に回収し、教員が印を押し、授業の最後に学生に返却した。学習者が1週間まとめてではなく、毎日聴いた量を記入できるよう工夫しながら「リスニング表」を作成した。
(Appendix1を参照)
- (3) 調査協力者は、リスニングの聴く量に合わせて成績に反映されるグループと成績には反映されないグループの2つのグループに分け実施された。成績に反映されるグループが36名、されないグループが29人である。

6. 分析の方法

質問紙による項目ごとの度数と%による単純集計を行い、回答傾向の特徴を調査した。調査協力者間(L2群とL1群)の質問紙の結果の t 検定を行い、2群間のデータの平均値と標準偏差を調査した。学習記録帳と学習者の動機づけについては、学習記録帳で学習時間が増えた調査協力者とそうでない調査協力者の両群間の比較はマン・ホイットニーの

u 検定（両側検定）を用い有意水準 5%にて行った。質問紙による質的観点からも調査を行った。

7. 結果と考察

表 1～6 は、L2 群と L1 群、全体の質問紙による項目ごとの度数と%による単純集計である。

表 1 は学生の学習時間が増加したのかを示している。L2 群は、83%、L1 群は 72%、全体では 78%の学生が、学習時間が増加したと答えている。本研究の第 1 の目的（学習記録帳の利用が、学習者の学習時間を増加することができるのか）を検討すると、回答の平均値が全体で 3.9 L2 群が 4.1、L1 群が 3.7であった。

表 1. 項目 1) リスニング表を記録し提出することで、学習時間が増えた。

	L2 群 (%)	L1 群 (%)	全体 (%)
{5}	42	20	32
{4}	41	52	46
{3}	8	14	11
{2}	3	7	5
{1}	6	7	6

注 {5} はい {4} どちらかといえばはい {3} どちらでもない {2} どちらかといえばいいえ
{1} いいえ

両群ともに学習記録帳の使用により学習時間が大幅に増加したことが本研究から示唆された。本研究第 2 の目的（学習記録帳の利用が成績に反映されるか否かで学習者の学習時間の増加や動機づけに違いはあるのか）を検討すると、L2 群と L1 群の有意水準 5%で対応のある t 検定を行った結果、両群との差は有意ではなかった。表 7 に示す。本研究において、学習時間を記録し提出することは自己申告であったため、成績に反映されるか否かは自律学習には影響がないと言える。

表 2 は、学生の自己分析での学習成果の結果である。L2 群は、41%、L1 群は、21%、全体では、33%の学生が自己分析で学習記録による授業形態の学習の成果を示している。

表2. 項目2) リスニング表を記録し提出することで、自己分析をして英語能力に伸びや成果があった。

	L2群 (%)	L1群 (%)	全体 (%)
{5}	8	0	5
{4}	33	21	28
{3}	47	51	49
{2}	6	21	12
{1}	6	7	6

注目されたいのがL2群で、47%、L1群で51%、全体で約5割の学生がどちらでもないと答えている。回答の平均値が全体で3.1 L2群が3.3、L1群が2.9であった。有意水準5%で対応のあるt検定を行った結果、両群との差は有意であった。表7に示す。英語の能力は目に見えてわかるものではなくあくまでも自己分析での判断ゆえ、自身の英語能力の成果を判断するのが難しく約半分の学生がどちらでもないと指示したと考えられる。

表3は、学習記録帳による学習への動機づけについての項目である。L2群は、63%、L1群は、51%、全体では、58%の学生が、学習記録帳の記録を熱心に取り組んだと述べている。

表3. 項目3) リスニング表を記録し提出することを、熱心に取り組んだ。

	L2群 (%)	L1群 (%)	全体 (%)
{5}	25	14	20
{4}	38	37	38
{3}	31	28	29
{2}	3	14	8
{1}	3	7	5

回答の平均値が全体で3.6 L2群が3.8、L1群が3.4であった。L2群とL1群の有意水準5%で対応のあるt検定を行った結果、両群との差は有意ではなかった。表7に示す。

表4は、学生が自発的に学習記録帳での学習に自発的に取り組んだかを示している。L2群は、80%、L1群は69%、全体では、75%の学生が、学習記録によって自発的に学習を行ったと述べている。

表4. 項目4) リスニング表を記録し提出することで、自発的に学習した。

	L2群 (%)	L1群 (%)	全体 (%)
{5}	36	28	32
{4}	44	41	43
{3}	14	21	17
{2}	0	7	3
{1}	6	3	5

回答の平均値が全体で4.0、L2群が4.1、L1群が3.8であった。L2群とL1群の有意水準5%で対応のある t 検定を行った結果、両群との差は有意ではなかった。表7に示す。

表5は、学生の学習記録帳による学習形態への満足度を示している。L2群は、83%、L1群は90%、全体では、86%の学生が、学習記録帳による学習形態はよかったと述べている。

表5. 項目5) リスニング表を記録し提出することは、よかった。

	L2群 (%)	L1群 (%)	全体 (%)
{5}	42	38	40
{4}	41	52	46
{3}	14	3	9
{2}	3	7	5
{1}	0	0	0

9割近い学生が、学習記録帳による学習形態に満足していることがわかる。質問紙によるコメントからも（自己申告なので本当の時間を素直に提出できた、勉強量が目に見えるのは良い、リスニング表が1日ずつ区切られているのが良かった、記録することで勉強量や何曜日に勉強するのが自覚できる、通学の時間を有意義に使うことができた）学習記録帳による学習形態がよかったのかが示唆される。回答の平均値が全体、L2群、L1群すべてが4.2であった。L2群とL1群の有意水準5%で対応のある t 検定を行った結果、両群との差は有意ではなかった。表7に示す。

表6は、学習記録帳での学習形態が、学生の学習への充実感を示している。L2群は、70%、L1群は、72%、全体では、70%の学生が、学習記録帳に学習記録をすることにより、学習をしたという充実感が得られたと述べている。

表6. 項目6) リスニング表を記録することで、「学習をした」という充実感が得られた。

	L2群 (%)	L1群 (%)	全体 (%)
{5}	28	24	26
{4}	42	48	44
{3}	19	14	17
{2}	8	7	8
{1}	3	7	5

回答の平均値が全体、L2群、L1群すべてが3.8であった。L2群とL1群の有意水準5%で対応のある t 検定を行った結果、両群との差は有意ではなかった。表7に示す。以上の結果から学習記録帳の導入により学習者への動機づけに効果があったことがこの研究から示唆された。質問項目5 (リスニング表を記録し提出することは、よかった) では、9割近い学生が、学習記録帳による学習形態に満足していることがわかる。これは質問紙によるコメントからも支持される (予習をしっかりと行うことができた、学習しようという意欲や、やらなければという義務感があり勉強できた、自発的に勉強できた、勉強したという充実感が得られた、自律学習を進めるいい機会になった、記録することで毎日少しずつでもやろうという意欲がわいた)。ただし、データ分析においては他の要因例えば学習者の態度・動機づけ、性格、認知スタイル、学習ストラテジー、性別などの影響を受けているということを見逃している点が本研究デザインの限界であることを付記する。

表7. アンケート項目別集計結果と対応のあるt検定の結果

項 目	全体 (n = 65)	L2群 (n = 36)	L1群 (n = 29)	変化量 t p		
	M (SD)	M (SD)	M (SD)			
Q1 リスニング表を記録し提出することで、学習時間が増えた	3.9 (1.09)	4.1 (1.06)	3.7 (1.10)	0.4	2.0	0.16
Q2 リスニング表を記録し提出することで、自己分析をして英語能力に伸びや成果があった	3.1 (0.91)	3.3 (0.93)	2.9 (0.83)	0.4	2.0	0.04
Q3 リスニング表を記録し提出することを、熱心に取り組んだ	3.6 (1.04)	3.8 (0.95)	3.4 (1.12)	0.4	2.0	0.10
Q4 リスニング表を記録し提出することで、自発的に学習した	4.0 (1.02)	4.1 (1.01)	3.8 (1.04)	0.3	2.0	0.38
Q5 リスニング表を記録し提出することは、よかった	4.2 (0.80)	4.2 (0.80)	4.2 (0.82)	0.0	2.0	0.94
Q6 リスニング表を記録することで、「学習をした」という充実感が得られた	3.8 (1.06)	3.8 (1.03)	3.8 (1.12)	0.0	2.0	0.78

注：有意水準5%とした両側検定

本研究目的の3つ目である学習記録帳の利用が、学習者の動機づけに効果があるのかを考察する。質問項目1のリスニング表を記録し提出することで、学習時間が増えたに「はい」と回答した学習者と「いいえ」と回答した学習者に分けて、質問項目3, 4, 5, 6への回答の平均値を調査し、両群間の比較はマン・ホイットニーのU検定(両側検定)を用い有意水準5%にて行った。マン・ホイットニーのU検定を行った結果、項目3, 4, 5, 6すべてに両群に有意水準5%のもとで、両群の中央値には有意な差が認められた。表8に示す。動機づけ理論の中に、学習者が自分の行動の決定にどれだけ関与しているかなどが含まれる自己決定理論(Self-Determination Theory、以下SDT)がある(八島, 2004)。SDTでは、学習者の動機づけが高まる条件として、自律性(autonomy)、有能性(competence)、関係性(relatedness)を挙げる。学習者は、学習の決定権は自分にあり、自ら進んで学びたいという自律性を持ち、学習の中で「できた」「わかった」という有能性を感じ、他者と共に学ぶという関係性を持つことで動機づけが高まるということである。学習記録帳に学習時間を記録し、提出することで学習者の自律性が芽生え、有能性を感じ

動機づけが高められたことがこの研究から示唆された。同様の指摘は東北大学の平成20年度質の高い大学教育推進プログラムの取組事例にもある。学習等達成度記録簿を導入した結果、教育効果が一層向上したとの報告がある。

表8. 学習記録帳の利用が学習者の動機づけに与える影響の平均値とマン・ホイットニーのU検定の結果

項目	項目1の回答	平均値	<i>u</i>
3	5	4.4	161.7 **
	1	1.5	
4	5	4.7	145.9 **
	1	1.3	
5	5	4.8	120.9 **
	1	3.8	
6	5	4.4	154.7 *
	1	3	

* $p < .05$. (5%水準で有意) ** $p < .01$ (1%水準で有意)

項目3) リスニング表を記録し提出することを、熱心に取り組んだ。

項目4) リスニング表を記録し提出することで、自発的に学習した。

項目5) リスニング表を記録し提出することは、よかった。

項目6) リスニング表を記録することで、「学習をした」という充実感が得られた。

質問紙によるコメントの主のものは以下のとおりである。

学生の自由欄の自己診断からのコメント

- ・ 予習をしっかりと行うことができた。
- ・ 自己申告なので、本当の時間を素直に提出できた。
- ・ 勉強量が目に見えるのは良い。
- ・ リスニング表が1日ずつ区切られているのが良かった。
- ・ 自分の勉強時間が数値で見られる。
- ・ 学習しようという意欲や、やらなければならないという義務感があり勉強できた。
- ・ 自発的に勉強できた。
- ・ 勉強したという充実感が得られた。
- ・ 記録することで勉強量や何曜日に勉強するのが自覚できる。
- ・ 通学の時間を有意義に使うことができた。
- ・ 全く予習をせずに授業に臨むことがなくなった。
- ・ 自律学習を進めるいい機会になった。
- ・ 記録することで毎日少しずつでもやろうという意欲がわいた。
- ・ 復習の欄があればよかった。
- ・ リスニング表の提出は機械的だった。
- ・ 自己申告だけではやる気がでない。

- ・自己申告だと正確な時間を申告しない人がある。

8. まとめと課題

本研究では、学習記録帳の利用が英語学習者の学習増加や動機づけに及ぼす効果の調査を行った。以下に結論を列挙する。

1. 学習記録帳の利用が、学習者の学習時間を増加することが示唆された。
2. 学習記録帳の利用が成績に反映されるか否かで学習者の学習時間の増加や動機づけに違いはあるのかを検討すると、両群との差は有意ではなかった。
3. 学習記録帳の利用が、学習者の動機づけに効果があるのかを考察したところ、学習記録帳に学習時間を記録し、提出することで学習者の自律性が芽生え、有感性を感じ動機づけが高められたことがこの研究から示唆された。

以上のことから、学習記録帳の利用が、学習者の学習時間を増加することが示唆され、その増加には成績の反映による影響はなく、学習者の動機づけに効果があったと結論付ける。最後に本研究の限界点として以下の2点を指摘しておく。第1に、信憑性、妥当性のある試験を導入し、学習者の学習効果を測定する必要がある。第2に、本研究は調査協力者の数が極めて限られた研究である。今後も更なる調査を重ねることで、学習者の動機づけの調査の結果の一般化可能性を深めていく必要がある。

参考文献

Gage, N.L. & Berliner, D.C. (1998) *Educational Psychology*. Boston: Houghton Mifflin Company.

Gagne, R.M. & Driscoll, M.P. (1988) *Essentials of Learning for Instruction*. New Jersey: Prentice Hall.

Krashen, S.D. & T.D.Terrell. (1983) *The Natural Approach: The Language Acquisition in the Classroom*. Prentice Hall.

McCombs, B.L. (1988) "Motivational Skills Training: Combining Metacognitive, Cognitive and Affective Learning Strategies" from Weinstein, C.E., Goetz, E.T. & Alexander, P.A (eds.) *Learning and Study Strategies: Issues in Assessment, Instruction and Evaluation*. San Diego: Academic Press Inc. p141-169.

八島智子 (2004) 『外国語コミュニケーションの情意と動機』 大阪：関西大学出版会

Yomiuri Online News

センター試験見直しなど、文科省が中教審に諮問

([http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20120828-OYT 1 T01107.htm](http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20120828-OYT1T01107.htm) 2012年 8 月28日)

Yomiuri Online News

大学生に勉強させよ…対策の大学に財政優遇案

([http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/news/20120307-OYT 8 T00902.htm](http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/news/20120307-OYT8T00902.htm) 2012年 3 月 8 日)

質の高い大学教育推進プログラム

(<http://www.eng.tohoku.ac.jp/edu/?menu=edu-gp>)

Appendix 1

英語 リスニング表 NAME _____

	1 day	2 day	3 day	4 day	5 day	6 day	7 day	合計	印	
Unit 1										
Unit 2										
Unit 3										
Unit 4										
Unit 5										
Unit 6										
Unit 7										
Unit 8										
Unit 9										
Unit 10										
Unit 11										
Unit 12										
								合計		